

**2022年3月期
決算発表 質疑応答**

(受注について)

Q 1. コストが上昇していますが値上げの可能性はありますか。また、2022年1月に実施した値上げの受注への影響を教えてください。

A 1. コスト上昇分を吸収する為の値上げにつきましては現在検討中です。1月の値上げ前後で受注高に多少の反動はありましたが、大きな影響はなかったと認識しています。

Q 2. 営業人員計画3,000名の見通しについて教えてください。(決算説明会資料 p27)

A 2. 営業人員は直近数カ月増加傾向にあり、3,000名を目指し採用活動に注力しています。また、3,000名確保せず5,200億円の受注確保が可能であれば、状況を見ながら要員計画を変更していきたいと考えています。

Q 3. 受注高はいつ頃新型コロナウイルス流行前の水準に戻る想定か教えてください。

A 3. 融資環境・お客様マインドは戻りつつあります。営業人員を確保し、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば回復可能と考えています。

(完成工事高・完成工事総利益について)

Q 4. 為替の影響について教えてください。

A 4. 現在年間の為替を1ドル125円のレートで算出しています。為替の影響があるのは、輸入資材とLPガスとなり、為替1円の変動によって原価が約3億円変動します。

Q 5. ロシアからの木材輸入禁止による影響はありますか。また、輸入木材以外の価格高騰の影響も教えてください。

A 5. ロシアからの輸入はなく、影響は受けておりません。また、60億円を輸入木材以外の価格高騰分として計画に織り込んでいます。

Q 6. 2023年3月期の完成工事総利益率低下理由を上期・下期に分けて教えてください。
(決算説明会資料 p26)

A 6. 前期に比べ、資材費は上期・下期共に約30億円、為替・輸入資材は上期約70億円、下期20億円、それぞれ増加すると見込んでいます。

Q 7. 今後目標となる完成工事総利益率の水準を教えてください。

A 7. 資材、為替の影響がなかった2020年3月期並みの28%程度を基準としていますが、まず早期に26%程度に回復させていきたいと考えております。

(その他)

Q 8. 2023年3月期の売上・利益計画の前提について教えてください。

A 8. 完成工事総利益は3月時点の木材価格・現状の為替の状況で算定し、入居率は前期並みにて計画しております。

Q 9. 自己株式取得の再開について方針を教えてください。

A 9. 従来のような継続的な自己株式取得は再開せず、現中期経営計画下では成長投資に充てる方針に変更はありません。
一時的な自己株式取得実施については、経営指標の達成状況、財務状況を踏まえ機動的に判断していきたいと考えています。

Q 10. 2023年度の営業利益は今期計画に比べ300億円以上増加する計画ですが、前提を教えてください。
(決算説明会資料 p38)

A 10. 今期の受注目標5,200億円を達成し、安定的な入居率を確保出来れば、営業利益1,300億円は達成可能と考えております。

以上